

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3年 6月 23日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

※事業所記入

事業所番号	3891400016
事業所名	グループホームあいの里
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏名	萩尾 弥生
自己評価作成日	令和 2年 12月 28日

【事業所理念】	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】
あいの里はみんなが一つの家族です。助け合い、支え合い、励まし合い、温かな、明るい笑顔のある家庭を目指します。	<p>○介護計画を作成するときに、職員中心の話し合いになっている。 (目標)介護計画を作成するときは、利用者の思いや意向、暮らし方が反映される内容になるようにする。 (結果)介護計画を作成する前に、家族や利用者の思いを確認し、担当者会議の案内も行なった。家族の参加はなかったが、数名の利用者には、参加してもらい思いや意向を反映した計画書を作成することができた。</p> <p>○日常的に利用者の口腔内の状況を確認し、健康が保持できるよう支援するまでには至っていない (目標)利用者の口腔内の状況を毎日確認していく。口腔体操等をおこない、健康状態が保てるようにしていく。 (結果)体操やリハビリ体操時に口腔体操を取り入れることが出来た。毎食後、義歯洗浄を行い、夜は、ポリドント洗浄や超音波洗浄を行う事が出来た。</p> <p>○運営推進会議に参加していない家族等に理解されていない。 (目標)運営推進会議に参加されていない家族全員に理解されるようにしていく。 (結果)運営推進会議を開催したときには、家族にも記録を送付し理解をえた。</p>	<p>山間に囲まれた地域にある事業所は、田畑の中の小高い場所に立地している。開設12年目を迎え、地域住民との交流や協力も多く、地域に根付いた事業所となっている。代表者のこだわりで整備された交流館には本格的なカラオケ機器を装備し、カラオケ大会や家族会、ボランティア団体の慰問など、利用者や地域住民などと一緒に賑わう機会が多い。現在はコロナ禍のため、イベント等の開催は自粛しているが、職員一同は早期の再開を願っている。また、事業所にある自家菜園ではきゅうりやトマトなど、ほとんどの野菜を栽培しており、毎日利用者と一緒に収穫し、毎食ふんだんに野菜を使った料理が提供されている。事業所内で野菜を活用しきれずに近隣住民におすそ分けすることもあり、大変喜ばれている。直接的な事業所運営は施設長や管理者に任されており、職員の意見を聞きながら、現場でのサービスなどに反映できるよう努めている。施設長や管理者、職員同士の関係性も良好で、勤続年数の長い職員も多い。訪問調査日の職員の聞き取りから、「言葉にできない利用者が増えてきているが、表情や動作をしっかりと観察し、利用者の思いが分かるように支援していきたい」という熱意を聞くことができた。さらに、事業所では利用者自身ができることを自由にしてもらい、職員と利用者の会話からも、アットホームな印象を窺うこともできた。</p>

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	個々の希望、意向を日々の生活の中や毎月開催しているカンファレンスで話し合い把握している	◎	/	◎	日々のかかわりの中で、職員は利用者から会話を通じて、思いや意向などを聞くようにしている。会話の少ない利用者には職員から声をかけ、会話につなげている。また、思いの把握が困難な利用者には家族に電話等で聞き取るほか、職員は表情や行動から思いをくみ取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	日々の生活の中で、本人の思いに気づくよう努めているが、把握が困難な方が増えており、職員サイドになりつつある。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時や面会時に本人の思いについて家族より聞いている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の介護記録やサービス計画書をいつでも閲覧できるようにしている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々のかかわりの中で、思いを見落とさないようにしている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家庭生活の延長に近づけるよう、入所時にセンター方式の基本情報や24時間シートを家族や本人に聞いている	/	/	○	入居時に、職員は利用者や家族のほか、事業所の身元引受人や面会の知人、親族からこれまでの暮らし方などを聞き、アセスメント表にまとめている。また、日々の生活の会話の中で、利用者から新たな情報を聞くこともある。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入所時には、センター方式を活用して状態の把握に努め、日常生活の中では、出来る事を声掛けをしながら行ってもらう	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	その時の行動や、顔つきなどで状態を把握している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	毎月ユニット会で話し合ったり、日常生活の中でゆっくり話を傾聴して、状態の把握に努めている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	入所時には、センター方式の24時間シートを活用して状態の把握に努め、日常生活の様子は、日誌や介護記録、24時間排泄チェック表をい活用し、職員間で状態の共有ができています	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンスを行う前に、家族や本人のニーズや意向を把握し、カンファレンスを開催している	/	/	○	職員会議やユニット会議の中で、事前に聞いた利用者や家族の意見のほか、職員からの意見を集約し、職員間で利用者本位の支援になるような話し合いをしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	家庭的な雰囲気でも過ごせるように、明るく、笑顔で意見を交換しながら接している	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンス等で話し合い、より良い生活が送れるよう意見を出し合っている	/	/	/	

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日常生活の中やケアプラン更新時に、本人の思いや要望を聞いている	/	/	/	利用者や家族の意見を聞き、医師などの関係者の意見を反映して職員間で話し合い、介護計画を作成している。訪問調査日には、利用者から出された「一人で安心してお風呂に入りたい」「本や新聞を読みたい」などの希望のほか、職員の意見を反映して、具体的目標を定めて作成した介護計画書を確認することができた。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご家族の面会時や利用者の担当を中心に、職員会議やケア会議で気付きや情報をみんなて話し合っている	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	生活環境や本人の意思をなるべく聞いて対処している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族や地域の方に、行事やイベントの案内をして、協力を得ていたが、コロナ対策で現在はできていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	本人、家族の意見を聞きながら、6ヵ月ごとにサービス計画を見直し、カンファレンスで話し合いを行っている	/	/	○	介護記録の上段に計画と留意事項欄があり、職員は一目で計画の内容を分かるようになっている。計画横には評価欄があり、職員は毎日チェックを入れている。介護記録には、日々の支援内容の記載はできているが、利用者の発した言葉や表情などの具体的な記録は少ないため、職員間で検討するなど、職員の記録内容の差をなくし標準化できることを望みたい。また、職員の気づき等は、介護記録には記載せず、ユニット会議録などに記載されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の介護記録にプランを記録し、職員間で状況確認を行っている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録、支援経過記録に、日々の様子を個別に記録している	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録の他に、通院状況、身体、行動の変化を記録している	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	サービス計画の見直しを6ヵ月ごとに行い、その際に介護計画も見直ししている	/	/	○	ユニット会議の中で話し合い、介護計画は6か月毎に見直しをしている。毎月のユニット会議で利用者の現状を確認しているものの、書面までは記録を残せていないため、毎日サービスの実施状況などを評価していることから、書面に残せるような書式に変更するなど、職員間で検討することを望みたい。また、状態の変化が生じた場合には、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月、ケア会議を開催し、介護計画の見直しを行っている	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の状態に変化があった場合は、家族に連絡し、介護計画の見直しを行っている 介護認定の変更申請を行い、変化があった場合は、現状に即したプランを作成している	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月、ケア会議を開催している 緊急案件があった場合は、臨時的ケア会議を数人で、問題解決の話し合いを行っている	/	/	○	毎月、職員会議やユニット会議のほか、主任会議を開催している。緊急案件のある場合は、その時の出勤職員で臨時会議を開催し、問題解決のための話し合いをしている。また、職員会議等には、基本職員全員の参加ができており、欠席した職員には議事録を回覧し、閲覧済のサインを入れるようになっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	毎月職員会、ユニット会で自由に意見が言える様に、職員一同が心掛けている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	毎月、勤務表の中に組み入れ、多くの職員が参加できるようにしている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を作成し、申し送りノートに記入して回覧している	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノート、業務日誌等で確認している	/	/	○	毎日の口頭での申し送りのほか、申し送りノートや業務日誌等にも必要事項を記載して共有している。また、職員は申し送りノート等の閲覧後にサインを入れることで、確実な伝達につなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	介護記録、支援経過記録に日々の様子を個別に記録している業務日誌、申し送りノートを活用している	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者の重度化、高齢化で「その日したいこと」を言えない方が多くなったが、希望を聞いて叶えられるよう努めている	/	/	/	入浴の準備から洋服選びまでのほか、レクリエーション内容など、職員は利用者のできることや選択、自己決定を尊重している。野球中継の好きな利用者は自室でテレビを見たり、個人的に新聞を取ったりしている利用者もいる。野菜の収穫や塗り絵時に、利用者が上手にできた場合に職員は褒めたり、まだ塗れていない部分の色のアドバイスをしたりするなど、喜びや楽しみなどの気持ちを上手に引き出している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	日々の生活の中で、本人に声掛けし選択、自己決定できる機会を作っている	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人のペースを大切に、常に声掛けをし納得できる暮らしを支援している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	常に声掛けし、強要しないよう、本人のペースで生活できるよう支援している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	レクリエーション、リハビリ体操、風船バレーなど工夫して行っている 季節の食材を使用して、調理の手伝いをしてもらっている	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人に寄り添い、意向をキャッチしながら、本人に合った暮らしができるように工夫している	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	内部研修会などで学び、人権や尊厳について学び、日々のかかわりの中で、お互いに注意するようにしている	○	-	○	内部研修を実施するほか、職員会議の中で管理者等は利用者の誇りやプライバシーについて注意喚起するなど、職員は理解している。気になる言動が見られた場合には、その都度職員同士でお互いに注意し合うようにしている。事業所には難聴の利用者が多く、職員の声かけが大きくなりがちであるが、プライバシーの配慮はできている。また、居室の入室の際には、職員からノックや声かけをしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者寄り添い、声掛け誘導を行っている	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	排泄や入浴時には、カーテンや戸を開けて、プライバシーに配慮しながら対応している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、ノックや声掛けを行っている	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報漏れや、プライバシーの保護について、職員会議等で話し合い、情報漏れ防止等について、理解し、厳守している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者によって手伝わってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、人生の先輩として敬い、支援している	/	/	/	こたわりが強い利用者もいるため、トラブルに発展しそうな場面も見られるが、職員はさり気なく仲介役となり、カバーをしている。訪問調査日には、自分の塗り絵の終わった利用者が隣の利用者を気遣ったり、利用者同士で穏やかにお茶を飲んだりする光景を見ることができた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士で会話や食事が楽しく出来るよう、環境を整えている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	同じ地域の方や話し相手になれるよう配慮している。 利用者同士のトラブルが増えたため、職員が間に入り、楽しく過ごせるよう配慮している	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルにならないよう座る席など配慮している 共通の話題でお互いにコミュニケーションを図れるように努めている	/	/	/	

愛媛県グループホームあいの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人や家族に話を聞いている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族に話を聞いている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	地元の方や友人等が面会に来てもらっていたが、現在は、コロナ対策で来ていないりリモート電話で家族と関わりを保てる体制を整えている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	家族、友人の方が面会に来て頂いたときは、気兼ねなく過ごせるよう配慮している 現在は、コロナ対策で面会を禁止している				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日は、戸外に出て日光浴をしたり、野菜の収穫を一緒に行っている	○	-	◎	年間の行事計画を立て、コロナ禍以前は、桜や紅葉など花見に出かけたり、地域の秋まつりや盆踊り大会などの地域行事に参加したりすることができていた。外出行事や地域イベントは中止となっているが、今年の4月には近場の数か所に人数を分散し、全ての利用者が花見にでかけることができた。また、毎日利用者と一緒に野菜の収穫をしたり、外に出て日光浴をしたりしている。車いすや歩行器を使用している利用者も同様に、日常的に日光浴など外気に触れられるよう支援できている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地域の行事やイベント時には、地域の方の協力を得ていたが、コロナ対策でイベントが中止になっており、外出の機会が少ない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車椅子で戸外に行き、外気浴などを行っている			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族や地域の方の協力を得て、外出している 現在は、コロナ対策で出かけることが出来なくなっている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	内部研修会で認知症について勉強会を行っている 職員間で困難事例を話し合い、個々の状態変化を把握し対応している				洗濯物を畳んだり、自身の居室の掃除や収納をしたり、野菜の収穫やその下処理をするなど、職員は利用者自身でできることを尊重して、見守りながら支援している。また、ユニット毎に、ラジオ体操やりハビリ体操を取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	月に1回の訪問診療で、主治医の指示を仰ぎながら支援している 状態が変化したとき時には、電話で指示を受けたり、通院している 日常生活の中で、生活リハビリを行う事で、機能維持に努めている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	新聞折りや、洗濯物畳、野菜の下処理などできる事を手伝ってもらっている	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の生活の中で、一人ひとりに役割分担をして、軽作業を行ってもらっている				毎日、モップ掛けや野菜の収穫、漬け物作りなど、利用者の得意なことが出来るよう、積極的に支援している。コロナ禍以前には交流館で地域住民を招待してカラオケ大会やビンゴゲームをしたり、ボランティアと交流したりするなど、利用者が楽しめる生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	新聞折り、塗り絵、パズルなどを日常生活の中で出来る事を利用者を選択してもらえるよう取り組んでいる 新聞を用途別に折ったり、ごみ箱折りをしてもらっている	○	-	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	運営推進会議に利用者代表で参加してもらっている 地域のイベントには、コロナ対策で参加できていない				

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	訪問美容により整髪してもらっている 好みの美容液など希望により購入している				起床時に、自身で着替えることができる利用者は、着る洋服を選びながら整容をしており、職員は、「今日は、オシャレな服着てるね」などの声かけをしている。利用者の服などが濡れたり汚れたりした場合には、職員がさり気なくカバーをしている。男性の利用者は自らで髭剃りを行い、後で職員が剃り残しがないか確認している。また、定期的に訪問美容の来訪があり、髪型などの整容をしている。さらに、重度な利用者にも同様の支援をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	本人の意思を尊重して決定してもらうように心掛けている 希望の美容室に行く時は、家族の協力を得ている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人に満足して頂けるよう、声掛けし確認している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	本人の好みの服を選んでもらったり、家族に持参してもらっている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	起床時に整容の声掛けや、利用者の状態把握に努め、さりげない声掛けをおこない、カバーを行っている	◎	-	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問美容時に好みの整髪をもらっている 本人の希望する美容室に行く時は、家族の協力を得ている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	起床時には、更衣してもらい、髭剃りや整髪できるよう支援している			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者の一歩の楽しみであり、健康のパロメーターであることを理解している				管理者が知り合いの栄養士に提供してもらった献立表を参考にしながら、1週間分の昼食メニューを作成している。それを見て、夕食の調理担当職員が夕食のメニューを考えている。利用者は野菜の皮むきや台拭きなど、できることを手伝っている。職員は、利用者の嗜好品やアレルギーも把握しており、好みのメニューにしたり、代替え食材の対応もできている。事業所内にある自家菜園で利用者自ら収穫した野菜を、惜しみなく使った料理が毎日提供されている。使い切れないキュウリや梅などは、利用者がヘタ取りや包丁で切り、味付けで種類を変えた漬物にしたり、梅干しを漬けたりしている。利用者の使用する食器は自由にしており、利用者が持参した物や事業所として準備した物を使用している。また、食事は全ての利用者がフロアに出てきて食べることができており、利用者の状態に応じた刻み食やミキサー食の対応をするなど、安心安全に食べられるよう考慮している。また、職員は利用者と一緒に食事を摂りながら、必要に応じて声かけや介助することができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	自家菜園があり、一緒に収穫したり、野菜の下処理などを手伝ってもらっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者と共に買い物に行ったり、野菜の収穫、野菜の下処理を手伝ってもらうことで、達成感につなげている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に、本人や家族から、食べ物の好き嫌いなものやアレルギーの有無を聞き、職員に周知している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	旬の野菜を使用した献立や、おやつ作りを利用者に手伝ってもらいながら、楽しみのある食事作りを心がけている				
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの咀嚼・嚥下機能に合わせた食事形態にしている 嚥下や咀嚼困難な人には、ミキサー食や一口大カットや刻み食で提供している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等、茶わんは、各個人の物を使用してもらい、手の力に合わせて軽い食器やスプーンを使用している。	◎	箸、茶わんは、各個人の物を使用してもらい、手の力に合わせて軽い食器やスプーンを使用している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者と同じテーブルを囲んで、同じ食事を一緒に食べながら、見守り介助をサポートしている			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	リビング、食堂から良く見える所に、対面キッチンで調理している 調理の音や匂いがするので、食事が待ち遠しく、残食もなく食事をされている		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一人ひとりにあった調理方法や食事形態にしている 水分摂取量も状況表に記録し状態を把握している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	日々の状態を状況表に記録し、食事が少ない時には、栄養補助食や好みの食事を提供して、低栄養にならないよう取り組んでいる				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立の偏りが無いよう、季節の食材を使用して献立を立てている 昼食のメニューは、予め決まっているが、朝食と夕食の献立は、バランスを考えて食事作りを行っている			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食器は洗浄後、毎回乾燥機にかけている まな板は、ハイター消毒を行い、衛生管理に努めている				

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの研修を内外で行い、口腔ケアの重要性を理解している 口腔ケア体操をリハビリ体操の中に取り組んでいる				事業所として、前回の目標達成計画に掲げて取り組み、日常的に職員が利用者の口腔内の状況を確認し、健康を保持に努められるようになっている。ほとんどの利用者が義歯を使用しており、職員は衛生面に配慮して毎食後洗浄をするほか、同時に利用者の口腔内の様子を細かく確認している。また、近々訪問歯科診療を依頼し、全ての利用者の口腔内の状況を確認してもらうことを予定している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	殆どの人が義歯であるが、口腔ケア時には、スタッフが付き添いながら口の中の状態を確認している			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科協力医に訪問診療を依頼していたが、コロナ対策で実施できていない 不具合のある利用者は、歯科通院し正しい口腔ケアを指導してもらっている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後、義歯洗浄し、夜は、外してもらい、ポリデント洗浄や超音波洗浄を行っている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後の口腔ケア時に細かくチェックし、清潔保持に努めている			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	異常が見られたり、本人の訴えがあった時には、すぐに歯科通院し対応している				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	一人ひとりの排泄状態を確認し、汚れたパンツ、パッドで過ごさないように声掛け、確認を行っている 尿意のない方は、定期的に声をかけて誘導している				利用者が、トイレで排泄できることを基本として支援している。現在、職員は声かけや誘導をしながら、全ての利用者がトイレで排泄することができている。夜間のみ、紙おむつやポータブルトイレを使用している利用者もいる。また、申し送り時に、職員から出された提案から排泄用品の変更を検討し、家族にも相談したうえで、利用者の適切なおむつなどの種類を決定している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排泄ケアの勉強会や、看護師からのアドバイスを受け、便秘の影響について学んでいる				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日、排泄チェック表や、状況表に記録してパターンの把握に努めている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレで排泄できることを基本とし、パッドを使用している利用者の方は、容量に合ったパッドを使用してもらっている ケア会議等でパッドの見直しを行っている	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	疾病の把握、食事の検討、水分補充に気を付け、主治医と相談しながら、改善できるよう取り組んでいる				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表や状況表に記録し、早めの声掛けや誘導を行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方向的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄チェック表や状況表に記録し、尿量や時間帯を話し合い、パッドを選んでいる 本人の希望を聞いて、パッドを選択してもらっている方もいる				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	一人ひとりの状態や時間帯に合わせて、その人に合ったパッドや紙パンツを使用している				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	毎日のリハビリ体操や水分摂取・食事の工夫で自然排便を促している 便秘気味の方は、担当医師に相談し、マグミットや緩下剤を処方してもらっている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	一日おきに入浴できるようにしている 拒否された時は、無理強いせず後日入浴してもらおう湯の温度は、好みに応じている	◎		○	週3回、利用者が入浴できるよう支援している。特にこだわりを言う利用者はなく、職員は利用者の湯の温度などの好みを尊重している。状態に合わせて、シャワーキャリーや浴槽台など使用したり、足浴にも対応したりするなど、利用者に合った適切な用具や手法を職員間で検討できている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	個室で、一人がゆったりと入浴できるよう、見守り支援している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	シャワーチェアや手すりを使用して、安全に安心して入浴出来るよう、見守り支援をしている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴を拒まれた場合は、無理強いせず、順番や日を変える様になっている				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎朝、健康状態を観察しており、体調が悪い時は入浴を中止したり、入浴前に再度、健康状態の確認をして入浴している 入浴後も、状態の確認を行っている				

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	24時間チェック表に、睡眠状態等を把握し、夜間は、排泄後休んで頂くよう声掛けをしている	/	/	/	日中、ラジオ体操やレクリエーションなどの活動量を増やし、利用者が安眠できるよう努めている。現在、眠剤等を服薬している利用者が7名程度いるが、主治医と相談しながら慎重に調整している。昼夜が逆転している利用者もいるが、かえって転倒リスクが高まるため眠剤などの使用はしていない。また、精神的に状態が不安定な場合には、偽薬で安定する利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中活動をしてもらえるように、体操やレクリエーションをして身体を動かすようにしている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	不眠時には、日中活動を増やしたり、本人の話を傾聴し、温かいものを飲んでもらい対応している 必要に応じて、医師と相談して、安定剤、眠剤を服用している	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	いつでも自室(個室)で休めるようにしている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を持参されている方は、自室で電話を使用されている 本人や家族から要望があった時は、電話やリモート電話で会話を楽しまれている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	リモート通話で、会話が楽しめる様に支援している 切手を購入したり、あて名を代筆したりして、利用者の要望に応じている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	希望があれば、自由に電話してもらっている(自室)	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に手渡し、要望があれば代読している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	遠距離の家族とは、電話やリモート電話で日常の様子を報告している 2か月に1回、写真付きの手紙を家族に送っている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	個人でお金を所持されているが、管理が難しい人は、管理者が預かっている	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	必要に応じて買い物と一緒にしている 管理者や担当が、代行で買ってくる時もある	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	利用者単独で買い物に行ける方はいないが、付き添いで買い物に行ったときは、買い物先の協力は得られている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と相談しながら、現金を管理者が預かっている 管理者が代行で買い物をしている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時に、本人、家族と所持金、管理方法について話し合っている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入所時に、預り金規程の説明を行い、毎月、出納帳の確認を家族に行なってもらっている 遠距離の方には、出納帳の写しを送って確認してもらっている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	希望に応じた外出支援、係り付け医の受診・往診、町外の専門医の受診、理美容の利用等、個々の希望に添った支援を行っている	◎	◎	現在のコロナ禍において、特に利用者や家族から希望が多いのは、買い物支援と専門医への受診介助となっている。事業所では、状況に応じて柔軟に責任持って対応をしている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	広く明るい空間の玄関で、気軽に入出入りできるようにしている 現在は、コロナ対策で面会を中止している	◎	-	◎	事業所の庭先は広く、数か所ベンチが置かれているほか、中学生が届けてくれた鉢植えなども置いている。夏場には玄関を網戸にして、開放している。日常的に、ベンチで日光浴をしている利用者の姿が見られることもあり、気軽に立ち寄れる雰囲気づくりもされている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	共用スペースには、行事等の写真や塗り絵など掲示している 季節に合った飾りつけの工夫もしている 玄関、リビングには、季節の花を職員が持ち寄り活けている	◎	-	○	リビングは対面キッチンになっているほか、テーブルやソファが置かれ、置コーナーも整備されている。テーブルには季節の生花が飾られてある。リビングや廊下には、扇風機やサーキュレーターが置かれ、エアコンの冷風や空気を循環している。また、事業所では空気清浄機も購入し、設置したばかりである。壁には行事等の写真や利用者の作品、得意な職員がかまぼこ板に書いた利用者の似顔絵などが飾られている。また、事業内は整理整頓が行き届いており、利用者や来訪者が気持ちよく過ごせるよう配慮されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎朝、施設の清掃を、利用者と共に、常に清潔保持に努めている				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花を活けたり、畑から収穫してきた野菜をかざったり、一緒に下ごしらえなどを行っている 各居室には、家族などの写真や季節の飾りつけを行っている				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	みんなと会話できるようソファに座ってもらったり、テレビ鑑賞をしてもらっている 自室で自由に過ごされる方もいる				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	トイレの扉とのれんでプライバシーが保たれている				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に、慣れ親しんだものを持参してもらい、本人が居心地良く生活してもらえようように対応している	◎		○	居室にはテレビや時計、誕生日プレゼントの花、衣装ケースなど、使いやすい物や思い出の品が持ち込まれている。99歳になる利用者は、居室で携帯電話を使用して家族と話しをするほか、自らクローゼット内の整理整頓をすることができている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	ホーム内には、安全に生活できるように手すりをつけ、トイレや居室には目印をつけて、不安なく生活してもらえようとしている			○	事業所内はバリアフリー構造で、随所に手すりが取り付けられている。居室には手作りの名札がかけられているほか、トイレには「便所」「トイレ」と大きく表示し、利用者に分かるよう工夫している。車いす用の広いトイレには手すりや立ち上がりバーが設置してあり、利用者の安全面にも配慮されている。また、廊下やリビングは利用者の動線を妨げないよう、整理整頓されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレや居室が分かりにくい方には、目印を分かりやすいものに変えたり、声掛けしながら対応している				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌が自由に読める様にしている 雑巾縫いや花壇の花植えなどは、協力してもらう				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は、玄関やユニットの出入口を開放している 玄関は、防犯、徘徊防止の為センサーを設置している 夜間は、不審者侵入防止の為、玄関、非常階段共に施錠している	◎	-	○	事業所では鍵をかけない取り組みができており、夏場の日中は玄関を網戸仕様にして、開放している。各出入口には利用者の安全面に配慮してセンサーを付けているほか、利用者の転落防止のため、2階の階段前にある格子部に施錠をしている。また、1階に降りたい利用者には、職員が付き添うなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	センサーで見守りを行っていることを説明し、日中は、施錠していないことを家族に理解してもらっている				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関には、モニターで来訪者を確認することが出来、必要な箇所には、センサーを取り付けている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時には、医療・介護連携シートを活用し、全職員が閲覧できるようにしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎朝のバイタル、日常の様子、入浴時の変化などに気を配り、異常が見られた時は、日誌等に記入している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師による週1回のバイタル測定(相談はいつでも可)、月1回の訪問診療、異常があれば、電話相談や通院できる体制ができています				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	入所時に、医療・介護連携シートや退院時サマリーを確認し、希望する医療機関を受診できるようにしている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	かかりつけ医の紹介状で、専門的な医療を受けられるよう支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	町内の医療機関は、管理者が通院支援をしている 町外の通院は、原則家族に対応してもらっているが、病状や家族での対応が難しい時には、施設が代理で支援している 通院後、家族に状態の報告を行っている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際には、サマリーや医療・介護連携シートを活用し、利用者の情報を提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院カンファレンスに参加し、治療方針や退院情報の把握に努めている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	かかりつけ医の紹介状や他の病院との連絡は、密に出来ている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	介護職員は、日々の体調変化や気付きを状況表や介護記録に記入している 看護師は、勤務時に記録の確認を行い、介護職や利用者へ状態の確認を行っている かかりつけ医や協力医療機関等に相談して対応している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	かかりつけ医や、協力医療機関、看護師に24時間気軽に相談できる体制が出来ている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	月に1度の訪問診療や、その他専門医療機関への通院等で日頃の健康管理、状態を看護師に報告、相談出来ている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	各個人の処方箋を確認し、副作用や用法に目を通している 薬の変更がある時は、連絡ノートに記入し、情報の共有を行っている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	個人の薬を薬箱に配薬し、服薬時間に合わせて服用してもらっている 毎回、名前、服薬時間を読み上げ、本人確認をして服薬支援している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	利用者の状態や変化を状況表、バイタルチェック表、排泄表を参考にして、職員同士の確認が出来ている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	現状の服薬結果、新しい薬などの様子観察を行い、記録に残し家族や医師にも情報提供を行っている 服用開始日も記入している				

愛媛県グループホームあいの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	△	入所時に終末ケアを行っていない旨を説明している 状態が変化したときは、その都度、家族の意向を確認しながら、状態にあった施設・医療機関への支援をおこなっている	/	/	/	事業所として、「医療連携体制に関する指針」「看取り指針及び対応マニュアル」は整備しているが、代表者の方針で看取り介護の対応はしていない。利用者が重度化した場合には、家族等に施設利用の申請をお願いしており、特別養護老人ホームや病院などに転院することが多い。また、利用者の容態の変化などの緊急時には、協力医との連携のうえで対応をすることもある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	重度化、終末期のあり方について、家族やかかりつけ医・協力医療機関との話し合いを行っているが、施設での対応は、体制が整っていない	○	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	利用者の状態変化を把握し、その状況にあった支援が出来るよう対応している 終末ケアができる体制は整っていないため、かかりつけ医と相談しながら対応している	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時や状態に変化があった時に、その都度対応方針について説明し、理解してもらっている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	重度化しても日々の生活がより良く生活してもらえよう、かかりつけ医と相談しながら対応している 医療的な治療が必要になった時には、入院治療をおこなっている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	重度化や終末期を迎える家族の意向や、心情を聞きながら支援している	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修会等に参加し、職員会で研修報告を行っている 内部研修会を看護師より定期的の実施し、定期的に学んでいる	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	内部研修会で感染症予防マニュアルに添った対応ができるよう説明している 感染症対応グッズを直ぐに使用できるよう点検を行っている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	感染症流行時期は、インターネットやかかりつけ医からの情報を入手している 運営推進委員会として、行政の方より最新情報を報告してもらっている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	かかりつけ医や行政から情報収集し、流行時に備えている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は、出勤時に、必ず手洗い、うがいを徹底している 感染症流行時には、マスクの着用も徹底している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	「皆が一つの家族である」という思いで、助け合い、支え合い、励まし合いながら接している	/	/	/	事業所では、年1回家族会を開催し、職員手づくりの食事を利用者と一緒に食べたり、イベントなどを楽しむことができていた。現在はコロナ禍のため中止しているが、管理者等は早期の家族会の再開を願っている。2か月に1回、「あいの里便り」の発行に合わせて、担当職員が手書きの手紙と利用者の写真を添えて送付している。コロナ禍もあり家族等の面会制限が設けられているが、昨年8月頃からタブレットを導入してリモート面会ができるよう対応しているほか、近くに住んでいる家族が届け物に持ってきた場合には、利用者と窓越しで面会できるよう工夫している。また、職員は家族に電話連絡のほか、手紙や状態報告書の送付を通して、意見や希望を聞く機会を作っている。さらに、今回のタブレット購入でのリモート対応や職員の入退職などの動向についても、家族に書面で報告している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族や友人が気軽に訪れてもらえる対応を行っている 現在は、コロナ感染対策で、面会を中止しているため、電話やリモートで面会を対応している	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	ホームでのイベントや行事に家族も参加して頂き、一緒に楽しんでもらえるようにしている 現在は、コロナ対策で行事等が出ていない	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	2か月に一回、担当者が写真入りのお便りを出し、近況報告を行っている 定期的に広報誌を送付している リモート電話で話ができるよう態勢を整えている	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族会時に家族のみの会議を開き、ホームへの疑問や意見を出し合ってもらっている 議事録や回答を、後日家族に送付している	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ホームでの様子を、家族への手紙と一緒に送っている 広報誌を発行して、近況報告を行っている 面会時には、お互いが和やかに過ごせるよう支援している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	年に1回、家族会を開催し、一年間の出来事などを報告し、欠席された家族には、資料を送付している 今年は、コロナの関係で書面報告をしている	/	○	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会や行事の時に参加してもらい、家族同士で交流してもらっている コロナ対策で現在は、出ていない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	定期的にケアプランを見直し、家族に報告している リスクを想定し、家族にもその旨を伝え、抑圧せずに伸び伸びと生活してもらえるように支援している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族の面会時に、ホームでの生活状況を報告し、家族からの意見や希望を聞いている 2か月に1回、写真と一緒にホームでの様子がわかるように、担当からお便りを出し、意見や希望を訪ねている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居契約時に、内容の説明を行い納得してもらっている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居事項に該当する事由に至った場合には、家族に具体的に説明し、退居先に移れるようにしている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居契約時に、契約書及び重要事項説明書等で具体的に説明し、同意を得ている 改定時にも文書で説明し、同意を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議のメンバーとして、近隣地域の方に参加してもらい、運営状況、活動状況等について報告し、理解を図っている	/	-	/	事業所にある交流館を地域に開放し、地域住民を招待してカラオケやビンゴゲームなどのイベントを開催している。秋まつりなどの地域行事に利用者と一緒に参加して交流をしている。行事の中止や面会制限などが設けられているため、現在ほとんどの交流は中止している。自家菜園で収穫したきゅうりやトマト、ピーマンなど、事業所内で野菜を活用しきれずに近隣住民におすそ分けすることもあり、大変喜ばれている。コロナ禍においても、中学生が育てた鉢植えを届けてくれている。また、法人・事業所として自治会に加入し、代表者は積極的に地区の総会などにも顔を出している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の行事に参加し、地域の方との交流を行っている ホームでのイベント時には、声をかけ、一緒に楽しんでもらっている コロナ対策で現在は、開催できていない	/	-	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	旬の野菜や、果物、手作りお菓子を頂いたり色々気にかけてもらっている	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	施設の一部(交流館)を開放し、いつでも気軽にカラオケを使用できるようにしている コロナ対策で現在は、出来ていない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	施設でイベントがある時は、近隣の方に声をかけて、一緒に楽しんでもらっている コロナ対策で現在は、来ていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域での行事参加時には、地域住民の方にボランティアで支援して頂いている コロナ対策で現在は、外出できていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	各医療機関、消防署、社協、市役所、包括支援センター、JA等協力してもらっている 相談にも来てもらっている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	西日本豪雨災害時には、近所のコンビニから物資を融通して頂いたり、地域の方からの支援もありとても助かった 近くの飲食店などを利用して、色々協力を得ていたが、コロナ対策で現在は、来ていない	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	運営推進会議に、毎回利用者や家族、地域の人に参加してもらっている コロナ対策で書面開催した際には、文書を送っている	○	/	○	運営推進会議は、家族代表や民生委員、地域住民、市担当者、地域包括支援センターの職員、法人代表者や元管理者など、多くの参加者を得て開催している。現在はコロナ禍のため、集合形式での開催は中止し、書面での開催・報告となっている。会議では、ヒヤリハット報告や新型コロナウイルス感染症緊急支援金の報告、年間の事業計画など、詳細まで報告することができている。また、管理者等は、「以前のように利用者や家族、地域住民たちと、活発な意見交換ができること」を願っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	会議で外部評価の内容、評価への取り組みを報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で報告し、意見や提案があったことを参考にさせてもらっている 改善事項等あった場合は、会議で報告している	/	-	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	メンバーが参加しやすい時間帯に開催し、ほぼメンバー全員出席してもらっている	/	-	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録は、その都度市役所に提出している 家族にも議事録を送付し、施設内にも閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、玄関やリビングなど、目に付きやすいところに掲示し、意識しながら日々の業務に取り組んでいる 職員会開催時には、全員で理念を唱和している	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	施設内の目に付きやすい場所に、理念を分かりやすく掲示している	○	-	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	内部研修会は、年間を通して行っている 外部研修は、年間を通して全員が受講できるように計画している	/	/	/	毎日、代表者は畑作業で事業所を訪れていることもあり、気さくな人柄で職員から慕われている。事業所の経営や業務など、代表者の息子である施設長と、管理者に任せている。個別面談は、管理者等が希望する職員のみ実施している。代表者等は、「直してほしいところ」などのアンケートを実施し、反映しながら働きやすい環境づくりに取り組んでいる。また、事業所として年間の事業計画を立てて、努力目標を定めているほか、年間行事計画も立て、外出行事や研修、会議予定も作成されている。さらに、勤務調整をして実務者研修などの外部研修に参加したり、ほぼ毎月テーマを決めて内部研修を実施したりするなど、職員育成にも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実務者研修が受講できるように勤務を調整している 認知実践者研修も順次受講できるようにしている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員の勤務状況は、代表者が十分に管理、把握しており、職員の福利厚生についても、各自向上心を持って働けるよう努めている 代表者より、「働きやすい職場にするには」と題して年に1回、全職員に意見を聞き、職場環境改善に取り組んでいる	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	相互研修への参加や、市単位の研修会に参加している コロナ対策で、参加は出来ない	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	代表者は、「働きやすい職場にするには」と題して全職員に意見を聞き、ストレスを軽減する環境づくりに取り組んでいる	○	-	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	職員会、内部研修会で繰り返し虐待防止について学習している 身体拘束廃止、虐待防止対策委員会を毎月開催し、検証している	/	/	/	職員は、職員会議や内部研修などで虐待防止や不適切なケアなどを学んで理解している。中には、地域の独特の方言が強い言い方になる職員もあり、日頃から管理者等は気になっている。不適切なケアや声かけなど気になる場合には、管理者や主任からその都度、該当職員に声をかけて注意し、改善方向に導いている。また、事業所には、「身体拘束廃止・虐待防止対策委員会」があり、2か月に1回話し合いをすることができている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送りや、毎月開催しているケア会議で、日々のケアについて話し合っている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員同士が不適切なケアについて声をかけ合ったり、管理者、主任が当事者に声掛けし、改善の方向に導いている	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	代表者は、職員からの意見を聞き、改善対策を職員会で報告し、職員の疲労やストレス改善に努めている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的に職員会で研修しており、理解できている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	内部研修会において、具体的な事例を挙げて、身体拘束に対しての話し合いを行っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入所時や面会に来られた時に、日中は施設していないことを伝え、それに対する安全対策を行っていることを説明し、理解してもらっている	/	/	/	

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	管理者が、制度についての研修会に参加し、利用者に成年後見制度の必要性を確認し、専門機関と相談している					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	地域包括支援センターとの連携を図り、相談にのれる体制を作っているが、相談は、今のところない					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターで開催している、認知症カフェに参加し、相互の情報交換を行っている現在は、コロナ対策で参加できていない					
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故発生時に備えた対応マニュアルを作成し、職員会や内部研修会で、勉強会を行っている年に1回は、消防士による救命講習を受講している					
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	消防士によるAEDの使い方、心肺蘇生、応急処置の講習を受講している					
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	誤薬、転倒、ふらつき事例等ヒヤリハットに記載している記載された記録を全職員が目を通して再度、事故対策委員会で再発防止について検討している					
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ケア会議にて、一人ひとりのリスクについて検討し、事故防止に努めている					
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情、問題が生じた時は、対応マニュアルに添って対応している					
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、直ぐに内容の確認を行い、苦情対策委員会を開催し、該当者及び、職員に苦情の内容、改善策を伝え、解決している解決されない場合は、専門家や第三者機関に報告する					
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して、速やかに内容の確認を行い、苦情対策委員会でサービス改善策を検討し、本人、家族に結果を報告し納得を得ながら良い関係作りにつとめている					
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	ご意見箱を玄関に設置して意見を聞いている介護相談員の受入れを行い、利用者の声を聴いてもらっている要望、苦情を受け付けた場合は、運営推進会議で報告している			○	事業所内に意見箱を設置しているが、意見が入ることがない。日々の生活の中で、職員は利用者へ直接聞くことが多い。面会制限もあり、現在介護相談員の訪問は中止されているが、それまでは年4回程度介護相談員の来訪があり、利用者の話しを聞いてもらい、報告してもらうことができていた。家族からは、電話連絡時や来訪時に意見を聞くほか、以前は家族会の終了後に、家族のみで話し合いをしてもらい、意見を伝えてもらうこともできていた。また、職員には、管理者等がその都度声をかけ、気になることは聞くようにしている。	
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族会を開催し、家族のみでの話し合いを行ってもらい意見を聞いている要望、改善に対する意見は、後日、家族に文書で回答している	◎		○		
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関にご意見箱を設置して、利用者・家族の意見を受け付けている					
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	職員会・イベント時には、必ず参加し職員との意見交換をしている普段から話しやすい雰囲気がある					
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	会議等で希望・要望と言える機会を作り、主任会や職員会で希望・要望に対しての話し合い、改善策を話し合い、利用者本位の支援に繋げている					○

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回、自己評価を全職員で取り組み、職員会で課題や指摘事項を議題として取り上げ、改善に向けての話し合いを行っている	/	/	/	年1回、自己評価は全ての職員で取り組み、管理者や主任がまとめて作成している。運営推進会議の中でも、外部評価結果や目標達成計画の取り組み状況等を報告し、参加者から助言をもらったり、取り組みへの協力もしてもらっている。また、家族にはサービス評価結果を報告するほか、職員会議の中でも話し合いをすることができている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題や指摘事項は、職員会等で課題として取り上げ、話し合いを行い、改善策を検討している	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	それぞれの評価結果を参考に、各ユニットで目標を立てて、達成に向けて取組んでいる	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果を運営推進会議で報告し、助言をもらっている家族にも評価結果を報告し、取り組みへの協力をお願いしている	○	-	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員会や運営推進会議で取り組みへの成果を確認している	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害マニュアルを作成し、内部研修会や消防署立ち合いの研修会を実施している	/	/	/	年2回、消防署に協力してもらいながら、火災や地震など様々な災害を想定した避難訓練を実施している。訓練時には地域住民への通報訓練を実際に行っている。家族には、地震想定での防災訓練の利用者の様子を「あいの里便り」に掲載するなどの報告もできているが、家族アンケートの結果からは災害時の対応などの理解が低いことが窺えるため、運営推進会議の開催時に避難訓練を実施するなど、工夫して家族へ周知しながら、理解が深められることを期待したい。また、10月～11月頃に、夜間想定した避難訓練を予定している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間を想定した訓練を消防署立ち合いで実施し、指導してもらっているその際に、地域住民や全職員への通報訓練も実施している	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	敷地内に消火栓を設置し、避難経路の点検を行い、非常用食料・備品の確認も定期的に行っている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	年に2回消防署の立ち合いで避難訓練を実施し、地域住民への通報訓練も行っている運営推進会議でも、災害時の協力をお願いしている	x	-	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	市や県で実施している訓練に参加している原子力災害時の受入れを市から依頼されている	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症SOSネットワーク模擬訓練に参加している地域で開催される認知症対策研修会に参加し、職員会で研修内容を報告している	/	/	/	事業所として、地域住民から電話や訪問時に相談を受けた場合には、入所までの相談支援のほか、他の介護サービス事業所を紹介したり、地域包括支援センターの相談につなげたりするなど、適切な対応ができている。市主催の認知症カフェや認知症SOSネットワークに参加協力し、認知症の行方不明者を実際に捜索するなどの模擬訓練も体験している。また、現在のコロナ禍において、地域のイベントやボランティアの受け入れはすべて中止となっているが、再開後には参加協力を予定している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入所申し込みに来られた家族等から、相談を受け、入所までの支援やサービス事業所に繋げている	/	-	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	有志ボランティアによるイベントを開催し、地域住民の方へも声掛けし参加してもらっている交流ホールにカラオケを設置しており、地域の方が趣味の活動の場として使用している	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	受け入れ態勢は出来ているが、希望者が今のところない	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市や包括の認知症サークルに加入し、地域のイベントに参加している認知症SOSネットワーク模擬訓練に参加している	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3年 6月 23日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

※事業所記入

事業所番号	3891400016
事業所名	グループホームあいの里
(ユニット名)	ひまわり
記入者(管理者)	
氏名	萩尾 弥生
自己評価作成日	令和 2年 12月 28日

<p>【事業所理念】</p> <p>あいの里はみんなが一つの家族です。助け合い、支え合い、励まし合い、温かな、明るい笑顔のある家庭を目指します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○介護計画を作成するときに、職員中心の話し合いになっている。 (目標)介護計画を作成するときは、利用者の思いや意向、暮らし方が反映される内容になるようにする。 (結果)介護計画を作成する前に、家族や利用者の思いを確認し、担当者会議の案内も行った。家族の参加はなかったが、数名の利用者には、参加してもらい思いや意向を反映した計画書を作成することができた。</p> <p>○日常的に利用者の口腔内の状況を確認し、健康が保持できるよう支援するまでには至っていない (目標)利用者の口腔内の状況を毎日確認していく。口腔体操等をおこない、健康状態が保てるようにしていく。 (結果)体操やリハビリ体操時に口腔体操を取り入れることが出来た。毎食後、義歯洗浄を行い、夜は、ポリドント洗浄や超音波洗浄を行う事が出来た。</p> <p>○運営推進会議に参加していない家族等に理解されていない。 (目標)運営推進会議に参加されていない家族全員に理解されるようにしていく。 (結果)運営推進会議を開催したときには、家族にも記録を送付し理解をえた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>山間に囲まれた地域にある事業所は、田畑の中の小高い場所に立地している。開設12年目を迎え、地域住民との交流や協力も多く、地域に根付いた事業所となっている。代表者のこだわりで整備された交流館には本格的なカラオケ機器を装備し、カラオケ大会や家族会、ボランティア団体の慰問など、利用者や地域住民などと一緒に賑わう機会が多い。現在はコロナ禍のため、イベント等の開催は自粛しているが、職員一同は早期の再開を願っている。また、事業所にある自家菜園ではきゅうりやトマトなど、ほとんどの野菜を栽培しており、毎日利用者と一緒に収穫し、毎食ふんだんに野菜を使った料理が提供されている。事業所内で野菜を活用しきれずに近隣住民におすそ分けすることもあり、大変喜ばれている。直接的な事業所運営は施設長や管理者に任されており、職員の意見を聞きながら、現場でのサービスなどに反映できるよう努めている。施設長や管理者、職員同士の関係性も良好で、勤続年数の長い職員も多い。訪問調査日の職員の聞き取りから、「言葉にできない利用者が増えてきているが、表情や動作をしっかりと観察し、利用者の思いが分かるように支援していきたい」という熱意を聞くことができた。さらに、事業所では利用者自身ができることを自由にしてもらい、職員と利用者の会話からも、アットホームな印象を窺うこともできた。</p>
--	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	毎日の申し送りや、月1回の職員会、カンファレンスで話し合い、個々の希望、意向の把握に努めている	◎	/	◎	日々のかかわりの中で、職員は利用者から会話を通じて、思いや意向などを聞くようにしている。会話の少ない利用者には職員から声をかけ、会話につなげている。また、思いの把握が困難な利用者には家族に電話等で聞き取るほか、職員は表情や行動から思いをくみ取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	日々の生活の中で、本人の思いに気づくよう努めているが、把握が困難な方が増えており、職員サイドになりつつある。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時や面会時に本人の思いについて家族より聞いている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	サービス計画書を作成し、本人の思いや家族の意向を聞き、ファイルしている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	生活全般の解決すべき課題として、担当者がケア会議時に報告し、スタッフで話し合っている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	今まで使用していた馴染みのある物を使用している利用者や家族から、生活歴や生活環境を聞いている	/	/	○	入居時に、職員は利用者や家族のほか、事業所の身元引受人や面会の知人、親族からこれまでの暮らし方などを聞き、アセスメント表にまとめている。また、日々の生活の会話の中で、利用者から新たな情報を聞くこともある。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入所時には、センター方式を活用して状態の把握に努め、日常生活の中では、出来る事を声掛けをしながら行ってもらう	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	顔つき、声のトーンで様子を伺っている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	利用者1名に対して2名のスタッフが担当し、夜勤時や入浴時などにゆったりと話し、思いや意向を聞いている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	入所時には、センター方式の24時間シートを活用して状態の把握に努め、日常生活の様子は、日誌や介護記録、24時間排泄チェック表をい活用し、職員間で状態の共有ができています。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	本人、家族の想いや意向を確認しながら検討している	/	/	○	職員会議やユニット会議の中で、事前に聞いた利用者や家族の意見のほか、職員からの意見を集約し、職員間で利用者本位の支援になるような話し合いをしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	日々利用者と生活を共にする中で、気付き、考え、意見を交換しながら必要な支援を考えている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケア会議時に相談し合ったり、毎日の引継ぎ時にも気になったことを話し合っている	/	/	/	

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人から聞いたり、日常生活の中から汲み取るようにしている				利用者や家族の意見を聞き、医師などの関係者の意見を反映して職員間で話し合い、介護計画を作成している。訪問調査日には、利用者から出された「一人で安心してお風呂に入りたい」「本や新聞を読みたい」などの希望のほか、職員の意見を反映して、具体的目標を定めて作成した介護計画書を確認することができた。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご家族の面会時に家族から意見を聞いたり、主治医と相談して日々のケアのあり方を作成している	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	生活環境を整え、出来る限りホームでの生活が続けられるよう計画を立てている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力的体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族や地域の方に、行事やイベントの案内をして、協力を得ていたが、コロナ対策で現在はできていない				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	本人、家族の意見を聞きながら、6か月ごとにサービス計画を見直し、カンファレンスで行っている				介護記録の上段に計画と留意事項欄があり、職員は一目で計画の内容を分かるようになっている。計画横には評価欄があり、職員は毎日チェックを入れている。介護記録には、日々の支援内容の記載はできているが、利用者の発した言葉や表情などの具体的な記録は少ないため、職員間で検討するなど、職員の記録内容の差をなくし標準化できることを望みたい。また、職員の気づき等は、介護記録には記載せず、ユニット会議録などに記載されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	個々の介護記録にプランを記録し、毎日評価できるようにしている				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個々の介護記録に具体的な内容を毎日記録するようにしている				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録の他に、通院状況、身体、行動の変化を記録している				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間内に担当者がアセスメントを行っている				ユニット会議の中で話し合い、介護計画は6か月毎に見直しをしている。毎月のユニット会議で利用者の現状を確認しているものの、書面までは記録を残せていないため、毎日サービスの実施状況などを評価していることから、書面に残せるような書式に変更するなど、職員間で検討することを望みたい。また、状態の変化が生じた場合には、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月、ケア会議を開催し、話し合っている				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	ケア会議時や改善点が発生した場合は、随時話し合いを行い、より良い支援ができるように計画を立て直している				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月、ケア会議を開催している。緊急案件があった場合は、臨時のケア会議を数人で、問題解決の話し合いを行っている				毎月、職員会議やユニット会議のほか、主任会議を開催している。緊急案件のある場合は、その時の出勤職員で臨時会議を開催し、問題解決のための話し合いをしている。また、職員会議等には、基本職員全員の参加ができており、欠席した職員には議事録を回覧し、閲覧済みのサインを入れるようになっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	毎月職員会、ユニット会で忌憚のない話し合いや、意見交換を行っている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	毎月、勤務表の中に組み入れ、多くの職員が参加できるようにしている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	議事録を回覧し、閲覧済みのチェックを入れるようにしている				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	職員会議での議事録や研修報告を閲覧し、職員間で共有している				毎日の口頭での申し送りのほか、申し送りノートや業務日誌等にも必要事項を記載して共有している。また、職員は申し送りノート等の閲覧後にサインを入れることで、確実な伝達につなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	勤務時に申し送りを口頭で行い、その他の情報は、連絡ノートを活用し、情報を共有できるようにしている	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	利用者の重度化、高齢化で、業務に追われ、毎日実践出来ていない	/	/	/	入浴の準備から洋服選びまでのほか、レクリエーション内容など、職員は利用者のできることや選択、自己決定を尊重している。野球中継の好きな利用者は自室でテレビを見たり、個人的に新聞を取ったりしている利用者もいる。野菜の収穫や塗り絵時に、利用者が上手にできた場合に職員は褒めたり、まだ塗れていない部分の色のアドバイスをしたりするなど、喜びや楽しみなどの気持ちを上手に引き出している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	交流館での行事に参加してもらえよう声掛けをし、拒否された時には、好きな事をして頂き、本人の気持ちを尊重している	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	食べたいもの、して欲しいこと、やってみたい事を一人ひとりにゆくりと聞き、できる様に支援している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	常に声掛けし、強要しないよう、本人のペースで生活できるよう支援している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	午前、午後の体操は、毎日欠かさず実施し、風船パレーやレクリエーション等も工夫している	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人に寄り添い、行動を見守りながら、意向をキャッチするようにしている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	内部研修会などで学び、出来ていない時は、お互い注意するようにしている	○	-	○	内部研修を実施するほか、職員会議の中で管理者等は利用者の誇りやプライバシーについて注意喚起するなど、職員は理解している。気になる言動が見られた場合には、その都度職員同士でお互いに注意し合うようにしている。事業所には難聴の利用者が多く、職員の声かけが大きくなりがちであるが、プライバシーの配慮はできている。また、居室の入室の際には、職員からノックや声かけをしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	時々大きな声で声掛けしている時があるが、利用者寄り添い、声掛け誘導を行っている	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄や入浴時には、カーテンや戸を開けて、プライバシーに配慮しながら対応している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、ノックや声掛けを行っている	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報漏れや、プライバシーの保護について、職員会議等で話し合い、情報漏れ防止等について、理解し、厳守している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者を手伝ってもらった時には、「ありがとうございました。」「助かりました」というようにしている	/	/	/	こだわりが強い利用者もいるため、トラブルに発展しそうな場面も見られるが、職員はさり気なく仲介役となり、カバーをしている。訪問調査日には、自分の塗り絵の終わった利用者が隣の利用者を気遣ったり、利用者同士で穏やかにお茶を飲んだりする光景を見ることができた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	元気な利用者が他者を手伝ってもらっているときは、職員は、見守りを行っている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	同じ地域の方や話し相手になれるよう配慮している。利用者が集まった時には、共通の話題を提供している	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルにならないよう座る席など配慮している	/	/	/	

愛媛県グループホームあいの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人や家族に話を聞いている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族に話を聞いている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	地元の方や友人等が面会に来てもらっていたが、現在は、コロナ対策で出来ていないリモート電話で家族と関わりを保てる体制を整えている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	家族、友人の方が面会に来て頂いたときは、気兼ねなく過ごせるよう配慮している現在は、コロナ対策で面会を禁止している				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日は、戸外に出て日光浴をしたり、野菜の収穫を一緒に行っている	○	-	◎	年間の行事計画を立て、コロナ禍以前は、桜や紅葉など花見に出かけたり、地域の秋まつりや盆踊り大会などの地域行事に参加したりすることができていた。外出行事や地域イベントは中止となっているが、今年の4月には近場の数か所に人数を分散し、全ての利用者が花見にでかけることができた。また、毎日利用者と一緒に野菜の収穫をしたり、外に出て日光浴をしたりしている。車いすや歩行器を使用している利用者も同様に、日常的に日光浴など外気に触れられるよう支援できている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の行事やイベント時には、地域の方の協力を得ていたが、コロナ対策でイベントが中止になっており、外出の機会が少ない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車椅子で戸外に行き、外気浴などを行っている			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族や地域の方の協力を得て、外出している現在は、コロナ対策で出かけることが出来なくなっている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	個々の利用者の状況を職員同士が密に報告し、行動や心理状態にあったケアを心がけている				洗濯物を畳んだり、自身の居室の掃除や収納をしたり、野菜の収穫やその下処理をするなど、職員は利用者自身でできることを尊重して、見守りながら支援している。また、ユニット毎に、ラジオ体操やりハビリ体操を取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	現在できている機能が低下しないよう、日常生活の中で無理強いほしないよう気を付けながら、声掛け支援している				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	新聞折りや、洗濯物畳、野菜の下処理などできる事を手伝ってもらっている		◎	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	毎朝、廊下のモップかけや、毎食後のお膳拭き、台ふき等出来る事を日常生活の中で手伝わってもらっている				毎日、モップ掛けや野菜の収穫、漬け物作りなど、利用者の得意なことが出来るよう、積極的に支援している。コロナ禍以前には交流館で地域住民を招待してカラオケ大会やビンゴゲームをしたり、ボランティアと交流したりするなど、利用者が楽しめる生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	塗り絵や間違い探し等のクイズなど、出来る事を利用者を選択してもらえよう取り組んでいる新聞用途別に折ったり、ごみ箱折りをしている	○	-	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	運営推進会議に利用者代表で参加してもらっている地域のイベントには、コロナ対策で参加できていない				

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	訪問美容により整髪してもらっている 好みの美容液など希望により購入している	/	/	/	起床時に、自身で着替えることができる利用者は、着る洋服を選びながら整容をしており、職員は、「今日は、オシャレな服着てるね」などの声かけをしている。利用者の服などが濡れたり汚れたりした場合には、職員がさり気なくカバーをしている。男性の利用者は自らで髭剃りを行い、後で職員が剃り残しがないか確認している。また、定期的に訪問美容の来訪があり、髪型などの整容をしている。さらに、重度な利用者にも同様の支援をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	本人の意思を尊重して決定してもらうように心掛けている 希望の美容室に行く時は、家族の協力を得ている	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けし、本人の希望に添えるように対応し、満足して頂けるよう支援している	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出、イベント参加時には、本人の好みの洋服と一緒に選んで着てもらっている	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者の状態観察を怠らず、優しく声掛けし、さりげない支援を行うよう心掛けています	◎	-	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問美容時に好みの整髪をしてもらっている 本人の希望する美容室に行く時は、家族の協力を得ている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	起床時には、更衣してもらい、髭剃りや整髪できるよう支援している	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者の一歩の楽しみであり、健康のパロメーターであることを理解している	/	/	/	管理者が知り合いの栄養士に提供してもらった献立表を参考にしながら、1週間分の昼食メニューを作成している。それを見て、夕食の調理担当職員が夕食のメニューを考えている。利用者は野菜の皮むきや台拭きなど、できることを手伝っている。職員は、利用者の嗜好品やアレルギーも把握しており、好みのメニューにしたり、代替え食材の対応もできている。事業所内にある自家菜園で利用者自ら収穫した野菜を、惜しみなく使った料理が毎日提供されている。使い切れないキュウリや梅などは、利用者がヘタ取りや包丁で切り、味付けで種類を変えた漬物にしたり、梅干しを漬けたりしている。利用者の使用する食器は自由にしており、利用者が持参した物や事業所として準備した物を使用している。また、食事は全ての利用者がフロアに出てきて食べることができており、利用者の状態に応じた刻み食やミキサー食の対応をするなど、安心安全に食べられるよう考慮している。また、職員は利用者と一緒に食事を摂りながら、必要に応じて声かけや介助することができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	自家菜園があり、一緒に収穫したり、野菜の皮むき、食器洗い、食後の片付けなどを手伝ってもらっている	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食後の片付け時のお膳拭き、台ふきを毎日自発的に行ってもらっている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	本人や家族から、食べ物の好き嫌いなものやアレルギーの有無を聞き、職員に周知している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	調理スタッフが変わる日があり、メニューも色々思考しながら取り組んでいる アレルギーがある方は、別メニューを作っている	/	/	/	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	◎	一人ひとりの咀嚼・嚥下機能に合わせた食事形態にしている 嚥下や咀嚼困難な人には、ミキサー食や一口大カットや刻み食で提供している	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等、箸は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	箸、茶わんは、各個人の物を使用してもらい、手の力に合わせて軽い食器やスプーンを使用している	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者の傍に座り、同じ食事を一緒に食べながら、見守り支援している	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	皆さん食欲旺盛で、残食が殆どなく、「美味しい」と言われながら食べられている	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	皆さん同じような量にしているが、血糖値の高い方は、控えめにしている 水分摂取量も状況表に記録し状態を把握している	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	日々の食事量、水分量は、毎回チェックしており、一日の摂取の合計を記録している	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	昼食のメニューは、予め決まっているが、朝食と夕食の献立は、前日と重複しないよう配慮している	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食器は洗浄後、毎回乾燥機にかけている まな板は、ハイター消毒を行い、衛生管理に努めている	/	/	/	

愛媛県グループホームあいの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	内部研修を行い、周知と誤嚥性肺炎の予防に努めている				事業所として、前回の目標達成計画に掲げて取り組み、日常的に職員が利用者の口腔内の状況を確認し、健康を保持に努められるようになっている。ほとんどの利用者が義歯を使用しており、職員は衛生面に配慮して毎食後洗浄をするほか、同時に利用者の口腔内の様子を細かく確認している。また、近々訪問歯科診療を依頼し、全ての利用者の口腔内の状況を確認してもらうことを予定している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時、スタッフが付き添い、口の中の状態を確認している			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科協力医に訪問診療を依頼していたが、コロナ対策で実施できていない不具合のある利用者は、歯科通院し正しい口腔ケアを指導してもらっている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後、義歯洗浄し、夜は、外してもらい、ポリデント洗浄や超音波洗浄を行っている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後の口腔ケアを行っている 口腔ケア体操を取り入れ、お口の健康に気を付けている			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異常が見られたり、本人の訴えがあった時には、すぐに歯科通院し対応している				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	一人ひとりの排泄状態を確認し、利用者の想いも考慮している 尿意のない方は、定期的に声をかけて誘導している				利用者が、トイレで排泄できることを基本として支援している。現在、職員は声かけや誘導をしながら、全ての利用者がトイレで排泄することができている。夜間のみ、紙おむつやポータブルトイレを使用している利用者もいる。また、申し送り時に、職員から出された提案から排泄用品の変更を検討し、家族にも相談したうえで、利用者の適切なおむつなどの種類を決定している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排泄ケアの勉強会や、看護師からのアドバイスを受け、便秘の影響について学んでいる				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日、排泄チェック表や、状況表に記録してパターンの把握に努めている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	個々が扱いやすい、着脱しやすいパッドやパンツを選択し、理解を得ている	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	頻尿等は、主治医と相談しながら、改善できるよう取り組んでいる				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表を活用し、時間を見計らって声掛けや誘導を行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	個々の利用者の尿量や時間帯で、パンツ・パッドを選んでいる 理解できる方には、説明アドバイスをしている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	その人の排泄の頻度や、尿量に配慮しながらパッドの使い分けをしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	緩下剤を服用している人も多いが、食事や水分にも気を付けている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	ほぼ一日おきに入浴になっているが、拒否された時は、無理強いせず後日入浴してもらおうお湯の温度は、好みに応じている	◎		○	週3回、利用者が入浴できるよう支援している。特にこだわりを言う利用者はなく、職員は利用者の湯の温度などの好みを尊重している。状態に合わせて、シャワーキャリーや浴槽台など使用したり、足浴にも対応したりするなど、利用者に合った適切な用具や手法を職員間で検討できている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	熱いお湯が好まれる方は、追い焚きをおこない、ゆっくりと湯船に浸かれるよう見守りしている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	洗髪、洗身等ができることをして頂き、付き添い、見守り支援をしている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴を拒まれた場合は、無理強いせず、本人が希望された時に入浴して頂く				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎朝、健康状態を観察しており、体調が悪い時は入浴を中止したり、入浴前に再度、健康状態の確認をして入浴している 入浴後も、状態の確認を行っている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	個人に合わせた室内の照明、冷暖房の調節をしている	/	/	/	日中、ラジオ体操やレクリエーションなどの活動量を増やし、利用者が安眠できるよう努めている。現在、眠剤等を服薬している利用者が7名程度いるが、主治医と相談しながら慎重に調整している。昼夜が逆転している利用者もいるが、かえって転倒リスクが高まるため眠剤などの使用はしていない。また、精神的に状態が不安定な場合には、偽薬で安定する利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中活動をしてもらえるように、体操やレクリエーションをして身体を動かすようにしている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	医師の指示のもと、安定剤、眠剤を服用しているひといる	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自由に休んでもらっている 好きな時に、自室で休まれる方もいる	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	個人で携帯電話を所有されている方もあり、家族と連絡を取ったり、手紙のやり取りも自由にされている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	切手を購入したり、あて名を代筆したりして、利用者の要望に応じている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	希望があれば、自由に電話をしてもらっている(自室)	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に手渡し、要望があれば代読している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	数名の方は、携帯電話を持参されている 家族からの電話も取り次いでいる	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	数名は、所持されているが、紛失の恐れがあるので、預かっている人が多い	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	化粧品やお菓子など申し出があれば、職員と一緒にに行くようにしている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	主に管理者が付き添い、買い物をしている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	契約時、家族と相談しながら、少額の現金を所持されているが、預かり金は、管理者が管理し、希望に応じて使えるようにしている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	所持金、管理方法については、契約時に説明し同意を得ている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入所時に、預り金規程の説明を行い、毎月、出納帳の確認を家族に行なってもらっている 遠距離の方には、出納帳の写しを送って確認してもらっている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	希望に応じた外出支援、係り付け医の受診・往診、町外の専門医の受診、理美容の利用等、個々の希望に添った支援を行っている	◎	/	◎	現在のコロナ禍において、特に利用者や家族から希望が多いのは、買い物支援と専門医への受診介助となっている。事業所では、状況に応じて柔軟に責任持って対応をしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	周辺には、野菜や季節の花を植え、垣根などはなく、オープンな雰囲気である	◎	-	◎	事業所の庭先は広く、数か所ベンチが置かれているほか、中学生が届けてくれた鉢植えなども置いている。夏場には玄関を網戸にして、開放している。日常的に、ベンチで日光浴をしている利用者の姿が見られることもあり、気軽に立ち寄れる雰囲気づくりもされている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	共用スペースには、行事等の写真や塗り絵など掲示している 季節に合った飾りつけの工夫もしている 季節の花も、職員が持ち寄り活けている	◎	-	○	リビングは対面キッチンになっているほか、テーブルやソファが置かれ、畳コーナーも整備されている。テーブルには季節の生花が飾られてある。リビングや廊下には、扇風機やサーキュレーターが置かれ、エアコンの冷風や空気を循環している。また、事業所では空気清浄機も購入し、設置したばかりである。壁には行事等の写真や利用者の作品、得意な職員がかまぼこ板に書いた利用者の似顔絵などが飾られている。また、事業内は整理整頓が行き届いており、利用者や来訪者が気持ちよく過ごせるよう配慮されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎朝、またはその都度トイレの掃除をして、常に清潔保持に努めている				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花、または季節に応じた装飾品を絶やさぬように心掛けている				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	独りになれる個室やみんなど話したりテレビ鑑賞ができるリビングと好みの場所で過ごされている				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	扉とカーテンでプライバシーが保たれている				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	衣装ケースやタンス、食器など馴染みの物や、好みの物を使われている	◎		○	居室にはテレビや時計、誕生日プレゼントの花、衣装ケースなど、使いやすい物や思い出の品が持ち込まれている。99歳になる利用者は、居室で携帯電話を使用して家族と話しをするほか、自らクローゼット内の整理整頓をすることができている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	ホーム内には、安全に生活できるようにバリアフリーで、随所に手すりも付けている 各居室、トイレのも目印を付けて、自立支援や安全な環境づくりに努めている			○	事業所内はバリアフリー構造で、随所に手すりが取り付けられている。居室には手作りの名札がかけられているほか、トイレには「便所」「トイレ」と大きく表示し、利用者に分かるよう工夫している。車いす用の広いトイレには手すりや立ち上がりバーが設置してあり、利用者の安全面にも配慮されている。また、廊下やリビングは利用者の動線を妨げないよう、整理整頓されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	声掛けすることを忘れず、心配がある時は、常に寄り添い、傾聴するように努めている				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	個人で裁縫箱を持ち、簡単な縫物をする人もいるが、大体は職員が縫物はやっている 雑巾縫いや花壇の花植えなどは、協力してもらう				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	高脇非常階段は、転落の危険があるため施錠している 後は、オープンである 要注意箇所には、センサーを取り付けている	◎	-	○	事業所では鍵をかけない取り組みができており、夏場の日中は玄関を網戸仕様にして、開放している。各出入り口には利用者の安全面に配慮してセンサーを付けているほか、利用者の転落防止のため、2階の階段前には格子部に施錠をしている。また、1階に降りたい利用者には、職員が付き添うなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	夜間のみ玄関を施錠している				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関には、モニターで来訪者を確認することが出来、必要な箇所には、センサーを取り付けている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時のサマリーや退院時の看護要約を熟読するようにしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎朝のバイタル、日常の様子、入浴時の変化などに気を配り、異常が見られた時は、日誌に記載している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師による週1回のバイタル測定(相談はいつでも可)、月1回の訪問診療、異常があれば、電話相談や通院できる体制ができています				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	病状によっては、専門医で受診している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	かかりつけ医の紹介状で、より専門的な医療が受けられるよう支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	管理者が家族の代理で通院を行う時もある 通院後、家族に状態の報告を行っている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際には、担当看護師や医師に、利用者の情報を提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院カンファレンスに参加し、治療方針や退院情報の把握に努めている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	看護師長、担当医師から入院状況報告の連絡を頂いており、退院が近くなると連絡もある				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	変化や気づき、気になることがある時は、職員同士、あるいは、上司、看護師に伝え、その都度対応している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	日中、夜間を問わず看護師、協力医療機関に連絡できるよう態勢が出来ている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	月に1度の訪問診療や、その他専門医療機関への定期通院を行っている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	訪問診療や専門医療機関での投薬、追加薬については、連絡ノートや薬局での処方箋で確認している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	朝、昼、夕、就寝前と仕分けされた容器に毎日配薬し、服薬時は、名前を毎回読み上げ、本人確認をして服薬支援している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	下剤コントロール表、状況表など記入することにより、全ての職員が確認することができる				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	新しく処方された薬については、訪問診療時等に効果を報告している 服用開始日も記入している				

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態が変化の都度、家族と相談している	/	/	/	事業所として、「医療連携体制に関する指針」「看取り指針及び対応マニュアル」は整備しているが、代表者の方針で看取り介護の対応はしていない。利用者が重度化した場合には、家族等に施設利用の申請をお願いしており、特別養護老人ホームや病院などに転院することが多い。また、利用者の容態の変化などの緊急時には、協力医との連携のうえで対応をすることもある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	現在、方針を模索中である	○	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	状態変化は常に把握し、その状況にあった支援が出来るよう対応している 終末ケアができる体制は整っていないため、かかりつけ医と相談しながら対応している	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時や状態に変化があった時に、その都度対応方針について説明し、理解してもらっている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	現在、重度や終末期の方はおられない また、十分な看取り体制は整っていない 家族、ホーム、病院、消防署の合意の下、看取りを行ったことがある	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の意向を出来る限り受け入れている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会、研修会等に随時参加し、資料や報告書を職員間で共有し、認識するようにしている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症対応グッズをひとまとめにし、直ぐに対応できるようにしている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	運営推進委員会として、行政からの参加もあり、その時に地域の感染発生状況等の報告を受けている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	注意報、警報発令で流行の兆しがあれば、速やかにマスクの着用、手洗いの徹底、面会の自粛などの対応をしている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	外出後の手洗い、食事前の手洗い、うがい、消毒等を徹底している 感染症流行時には、マスクの着用も徹底している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	「皆が一つの家族である」という思いで、日々接している	/	/	/	事業所では、年1回家族会を開催し、職員手づくりの食事を利用者と一緒に食べたり、イベントなどを楽しむことができていた。現在はコロナ禍のため中止しているが、管理者等は早期の家族会の再開を願っている。2か月に1回、「あいの里便り」の発行に合わせて、担当職員が手書きの手紙と利用者の写真を添えて送付している。コロナ禍もあり家族等の面会制限が設けられているが、昨年8月頃からタブレットを導入してリモート面会ができるよう対応しているほか、近くに住んでいる家族が届け物に持ってきた場合には、利用者と窓越しで面会できるよう工夫している。また、職員は家族に電話連絡のほか、手紙や状態報告書の送付を通して、意見や希望を聞く機会を作っている。さらに、今回のタブレット購入でのリモート対応や職員の入退職などの動向についても、家族に書面で報告している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族や友人が気軽に訪れてもらえる対応を行っている 現在は、コロナ対策で、面会を中止しているため、電話やリモートで面会を対応している	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	ホームでのイベントや行事に家族も参加して頂き、一緒に楽しんでもらえるようにしている 現在は、コロナ対策で行事等が出ていない	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	2か月に一回、担当者が写真入りのお便りを出し、近況報告を行っている 定期的に広報誌も送付している リモート電話で話ができるよう態勢を整えている	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族会時に家族のみの会議を開き、ホームへの疑問や意見を出し合ってもらっている 議事録や回答を、後日家族に送付している	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	担当者が、お便りでホームでの様子を、報告している 場合により、家族に電話をし、協力を得ながら支援している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	家族会での話し合いの場で詳細を報告している 本年度は、コロナの関係で書面報告をしている	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会や行事の時に参加してもらい、家族同士で交流してもらっている コロナ対策で現在は、出ていない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	行動が萎縮しないよう、命に関わる事以外は、抑圧せずに見守るようにしている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族の面会時に、ホームでの生活状況を報告し、家族からの意見や希望を聞いている 2か月に1回、写真と一緒にホームでの様子がわかるように、担当からお便りを出し、意見や希望を訪ねている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居契約時に、内容の説明を行い納得してもらっている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族とよく話し合い、利用者にとって最も最適な方法を選択するようにしている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居契約時に、契約書及び重要事項説明書等で具体的に説明し、同意を得ている 改定時にも文書で説明し、同意を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議のメンバーとして、近隣地域の方に参加してもらい、運営状況、活動状況等について報告し、理解を図っている	/	-	/	事業所にある交流館を地域に開放し、地域住民を招待してカラオケやビンゴゲームなどのイベントを開催している。秋まつりなどの地域行事に利用者と一緒に参加して交流をしている。行事の中止や面会制限などが設けられているため、現在ほとんどの交流は中止している。自家菜園で収穫したきゅうりやトマト、ピーマンなど、事業所内で野菜を活用しきれずに近隣住民におすそ分けすることもあり、大変喜ばれている。コロナ禍においても、中学生が育てた鉢植えを届けてくれている。また、法人・事業所として自治会に加入し、代表者は積極的に地区の総会などにも顔を出している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	自治会に参加しているイベント時には、声をかけ、一緒に楽しんでもらっていたが、コロナ対策で現在は、開催できていない	/	-	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	散歩のときに声をかけてもらったり、野菜、果物、手作りお菓子を頂いたりと色々気にかけてもらっている	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	施設の一部(交流館)を開放し、いつでも気軽にカラオケを使用できるようにしている コロナ対策で現在は、出来ていない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	施設でイベントがある時は、近隣の方に声をかけて、一緒に楽しんでもらっている コロナ対策で現在は、来ていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域での行事参加時には、地域住民の方にボランティアで支援して頂いている コロナ対策で現在は、外出できていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	各医療機関、消防署、社協、市役所、包括支援センター、JA等協力してもらっている相談にも来てもらっている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	西日本豪雨災害時には、近所のコンビニから物資を融通して頂いたり、地域の方からの支援もありとても助かった 近くの飲食店などを利用して、色々協力を得ていたが、コロナ対策で現在は、来ていない	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	運営推進会議に、毎回利用者や家族、地域の人に参加してもらっている コロナ対策で書面開催した際には、文書を送っている	○	/	○	運営推進会議は、家族代表や民生委員、地域住民、市担当者、地域包括支援センターの職員、法人代表者や元管理者など、多くの参加者を得て開催している。現在はコロナ禍のため、集合形式での開催は中止し、書面での開催・報告となっている。会議では、ヒヤリハット報告や新型コロナウイルス感染症緊急支援金の報告、年間の事業計画など、詳細まで報告することができている。また、管理者等は、「以前のように利用者や家族、地域住民たちと、活発な意見交換ができること」を願っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	会議で外部評価の内容、評価への取り組みを報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で報告し、活発な意見交換があり参考にさせてもらっている 改善事項等あった場合は、会議で報告している	/	-	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	メンバーが参加しやすい時間帯に開催し、ほぼメンバー全員出席してもらっている	/	-	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録は、その都度市役所に提出している 家族にも議事録を送付し、施設内にも閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、玄関やリビングなど、目に付きやすいところに掲示し、意識しながら日々の業務に取り組んでいる 職員会開催時には、全員で理念を唱和している	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	施設内の目に付きやすい場所に、理念を分かりやすく掲示している	○	-	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	内部研修会は、年間を通して行っている 外部研修は、年間を通して全員が受講できるように計画している	/	/	/	毎日、代表者は畑作業で事業所を訪れていることもあり、気さくな人柄で職員から慕われている。事業所の経営や業務など、代表者の息子である施設長と、管理者に任せている。個別面談は、管理者等が希望する職員のみ実施している。代表者等は、「直してほしいところ」などのアンケートを実施し、反映しながら働きやすい環境づくりに取り組んでいる。また、事業所として年間の事業計画を立てて、努力目標を定めているほか、年間行事計画も立て、外出行事や研修、会議予定も作成されている。さらに、勤務調整をして実務者研修などの外部研修に参加したり、ほぼ毎月テーマを決めて内部研修を実施したりするなど、職員育成にも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実務者研修が受講できるように勤務を調整している 認知実践者研修も順次受講できるようにしている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員の勤務状況は、代表者が十分に管理、把握しており、職員の福利厚生についても、各自向上心を持って働けるよう努めている 代表者より、「働きやすい職場にするには」と題して年に1回、全職員に意見を聞き、職場環境改善に取り組んでいる	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	相互研修は、毎年参加していたが、昨年より参加数が少なくなり、今年度は、辞退した コロナ対策で、参加は出来ない	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	代表者は、「働きやすい職場にするには」と題して全職員に意見を聞き、ストレスを軽減する環境づくりに取り組んでいる	○	-	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	職員会、内部研修会で繰り返し虐待防止について学習している 身体拘束廃止、虐待防止対策委員会を毎月開催し、検証している	/	/	/	職員は、職員会議や内部研修などで虐待防止や不適切なケアなどを学んで理解している。中には、地域の独特の方言が強い言い方になる職員もあり、日頃から管理者等は気になっている。不適切なケアや声かけなど気になる場合には、管理者や主任からその都度、該当職員に声をかけて注意し、改善方向に導いている。また、事業所には、「身体拘束廃止・虐待防止対策委員会」があり、2か月に1回話し合いをすることができている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	疑問点、問題点、反省点など、その都度投げかけ話し合うようにしている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員同士が不適切なケアについて声をかけ合ったり、管理者、主任が当事者に声掛けし、改善の方向に導いている	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	職員のストレスや疲労には注意を払っているが、なんでも相談できる雰囲気にしていきたい	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的に職員会で研修しており、理解できている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	内部研修会において、具体的な事例を挙げて、身体拘束に対しての話し合いを行っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入所時や面会に来られた時に、日中は施設していないことを伝え、それに対する安全対策を行っていることを説明し、理解してもらっている	/	/	/	

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	管理者が、制度についての研修会に参加し、利用者に成年後見制度の必要性を確認し、専門機関と相談している				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	地域包括支援センターとの連携を図り、相談にのれる体制を作っているが、相談は、今のところない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターで開催している、認知症カフェに参加し、相互の情報交換を行っている 現在は、コロナ対策で参加できていない				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成し、職員会や内部研修会で、勉強会を行っている 年に1回は、消防士による救命講習を受講している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	消防士によるAEDの使い方、心肺蘇生、応急処置の講習を受講している				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	細かい事例にいたるまで、ヒヤリハットに記載し、全職員が目を通している 再度、事故対策委員会で再発防止について検討している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	常に状態を把握し、申し送りを行い、職員間の連携を密にしている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情、問題が生じた時は、マニュアルに添って対応している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、直ぐに内容の確認を行い、苦情対策委員会を開催し、該当者及び、職員に苦情の内容、改善策を伝え、解決している 解決されない場合は、専門家や第三者機関に報告する				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して、速やかに内容の確認を行い、苦情対策委員会でサービス改善策を検討し、本人、家族に結果を報告し納得を得ながら良い関係作りにつとめている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	ご意見箱を玄関に設置して意見を聞いている 介護相談員の受入れを行い、利用者の声を聴いてもらっている 要望、苦情を受けつけた場合は、運営推進会議で報告している			○	事業所内に意見箱を設置しているが、意見が入ることがない。日々の生活の中で、職員は利用者へ直接聞くことが多い。面会制限もあり、現在介護相談員の訪問は中止されているが、それまでは年4回程度介護相談員の来訪があり、利用者の話しを聞いてもらい、報告してもらうことができていた。家族からは、電話連絡時や来訪時に意見を聞くほか、以前は家族会の終了後に、家族のみで話し合いをしてもらい、意見を伝えてもらうこともできていた。また、職員には、管理者等がその都度声をかけ、気になることは聞くようにしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族会を開催し、家族のみでの話し合いを行ってもらい意見を聞いている 要望、改善に対する意見は、後日、家族に文書で回答している	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関にご意見箱を設置して、利用者・家族の意見を受け付けている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	職員会・イベント時には、必ず参加し職員との意見交換をしている 普段から話しやすい雰囲気がある				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	毎月の主任会や職員会で意見や提案を言える機会がある 良い支援のため、活発に意見を出し合っている			○	

愛媛県グループホームあいの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回、自己評価を全職員で取り組み、職員会で課題や指摘事項を議題として取り上げ、改善に向けての話し合いを行っている				年1回、自己評価は全ての職員で取り組み、管理者や主任がまとめて作成している。運営推進会議の中でも、外部評価結果や目標達成計画の取り組み状況等を報告し、参加者から助言をもらったり、取り組みへの協力もしてもらっている。また、家族にはサービス評価結果を報告するほか、職員会議の中でも話し合いをすることができている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題や指摘事項は、職員会等で課題として取り上げ、話し合いを行い、改善策を検討している				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	それぞれの機関に報告、助言を頂いている				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果を運営推進会議で報告し、助言をもらっている 家族にも評価結果を報告し、取り組みへの協力をしてもらっている	○	-	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員会や運営推進会議で取り組みへの成果を確認している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害マニュアルを作成し、内部研修会や消防署立ち合いの研修会を実施している				年2回、消防署に協力してもらいながら、火災や地震など様々な災害を想定した避難訓練を実施している。訓練時には地域住民への通報訓練を実際に行っている。家族には、地震想定での防災訓練の利用者の様子を「あいの里便り」に掲載するなどの報告もできているが、家族アンケートの結果からは災害時の対応などの理解が低いことが窺えるため、運営推進会議の開催時に避難訓練を実施するなど、工夫して家族へ周知しながら、理解が深められることを期待したい。また、10月～11月頃に、夜間想定した避難訓練を予定している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間を想定した訓練を消防署立ち合いで実施し、指導してもらっている その際に、地域住民や全職員への通報訓練も実施している				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	敷地内に消火栓を設置し、避難経路の点検を行い、非常用食料・備品の確認も定期的に行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	年に2回消防署の立ち合いで避難訓練を実施し、地域住民への通報訓練も行っている 運営推進会議でも、災害時の協力をお願いしている	x	-	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	市や県で実施している訓練に参加している 原子力災害時の受入れを市から依頼されている				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症SOSネットワーク模擬訓練に参加している 地域で開催される認知症対策研修会に参加し、職員会で研修内容を報告している				事業所として、地域住民から電話や訪問時に相談を受けた場合には、入所までの相談支援のほか、他の介護サービス事業所を紹介したり、地域包括支援センターの相談につなげたりするなど、適切な対応ができている。市主催の認知症カフェや認知症SOSネットワークに参加協力し、認知症の行方不明者を実際に捜索するなどの模擬訓練も体験している。また、現在のコロナ禍において、地域のイベントやボランティアの受け入れはすべて中止となっているが、再開後には参加協力を予定している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入所申し込みに来られた家族等から、相談を受け、入所までの支援やサービス事業所に繋げている		-	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	有志ボランティアによるイベントを開催し、地域住民の方へも声掛けし参加してもらっている 交流ホールにカラオケを設置しており、地域の方が趣味の活動の場として使用している				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	受け入れ態勢は出来ているが、希望者が今のところない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市や包括の認知症サークルに加入し、地域のイベントに参加している 認知症SOSネットワーク模擬訓練に参加している			○	